

「コロナ」と聞いて何、とは今の人には愚問。1960・70年代に生きた人は「トヨタ・コロナ」。20年前に販売終了とか、良かったね、豊田章男君  
1月13日のゼミは、新しいテキスト・斎藤幸平『人新世の「資本論」』の「はじめに」、第1章「機構変更と帝国的生活様式」、第2章「気候変動ケインズ主義の限界」を小野さんの報告で行いました。この本では、SDGsに疑問をいただき、『資本論』を参照しながら「人新世」での資本と社会と自然の絡み合いを分析する。気候変動へのノーベル経済学賞の罪を問ひ、気候変動に対して以前の状態に戻れない地点が迫り、二酸化炭素排出量の問題、海面上昇、環境負荷の飛躍的増大、新興国などグローバルサウスへの「人災」の広がりや資本主義の矛盾とつながり、先進国の帝国的生活様式で維持でなくなっている。地球環境も搾取の対象で環境負荷が外部化され、「大洪水よ、わが亡き後」へ。そこにグリーン・ニューディールが新たなビジネスチャンスに。成長とCO2削減は両立するのか、技術楽観論では解決せず、脱成長という選択肢を提起している。最後に報告者は資本主義の害悪の多面性、物理的環境と生物的環境での悪化の違い、これまでの恐慌に対し石油危機・コロナ危機での剰余価値生産の困難、情報労働の拡大を指摘した。討論では、これからの人々はどうのように発展していくのか、情報化で、また技術革新で解決できるのか。ドーナツ経済の内側での不足に対し、どのように公平に分けることができるのか、人口が多すぎるのか。農業のGDPがとても低く評価されているのは貨幣での評価。使用価値の問題を問うているが、それは価値の問題でもある。お茶を飲むのに以前は急須を使ったのは昔の話、いまはペットボトル、それでいいのか。出席は、小野さん、川口さん、松村さん、斎藤さん、竹内さん、北川さん、山口さんと高田の8名でした。

- \* 3カ月の長いゼミ休みとなりました。毎回参加者の皆様へゼミの開催・中止を問合せ、都合12月から2月まで6回のゼミが中止・延期となりました。コロナ籠りで皆様のご健康・ご勉強が気になっていました。なぜもっと検査を増やさないのか、医療など社会基盤への支援をもっとあつくしないのか、政府・自治体の政策当局への疑問がふつつつわきます。
- \* 3月27・28日の基礎研春集会は昨年9月の研究大会同様に、ネット配信で行われ、京都にも視聴会場があります。ぜひご参加ください。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

- 3月25日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』第3巻35章 貴金属と為替相場 2節 報告高田
- 4月14日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
斎藤幸平『人新世の「資本論」』第3章・第4章 報告松村さん
- 4月28日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』第3巻36章 資本主義以前[の状態] 報告高橋さん  
その後 5/12, 5/26, 6/9, 6/23, 7/14, 7/28, 8月?, 9/8, 9/22 (アイクルの部屋)